

3.18.3 国際推進部門 標準化推進室

室長(兼務) 深堀道子 ほか7名

国際標準化による研究成果の社会還元への推進

【概要】

NICT の研究成果が実社会において広く活用されるよう、研究成果の社会還元の一環として、国際標準化活動の強化、推進を行い、我が国の国際競争力の強化に貢献している。具体的には、国際標準への反映を念頭においた研究開発を推進し、その成果を国際電気通信連合 (ITU) 等の国際標準化機関や各種フォーラムへ寄与文書として積極的に提案することを支援している。また、NICT は専門的な知見を有する中立的な立場であることから、国内における各種の標準化関係委員会への委員の派遣等を積極的に行うとともに、国際標準化で活躍することを目指した人材の育成を行っている。さらに、標準化に関するフォーラム活動、国際会議等の我が国での開催を積極的に支援している。

【平成 26 年度の成果】

(1) 国際標準化会議等への参加、標準への反映

- ① 研究成果を国際標準に反映していくため、各種国際標準化機関等における会議等に積極的に参加するとともに、平成 26 年度においては研究開発成果等に基づき延べ 266 件の寄与文書を提出した。また、標準化に係る各種委員会、国際標準化機関等の会議等において、平成 26 年度は延べ 90 人が議長やエディター等の役割を務め、研究開発成果の国際標準化に貢献した。
- ② このような活動の結果、平成 26 年度においては、新世代ネットワーク、ネットワークセキュリティ、ワイヤレスネットワーク、電磁環境等の分野において、NICT の研究成果を反映した国際標準が成立した(図 1)。
- ③ また、平成 24 年に策定した標準化ポリシーを踏まえて、防災や医療などニーズオリエンテッドな標準化に関する取組を強化した。具体的には、ITU-T「Focus Group on Disaster Relief Systems, Network Resilience and Recovery」、[Focus group on Aviation Cloud]、Asia-Pacific Telecommunity (APT) 等の国際標準化会合に参加し、NICT の研究成果の国際標準化に寄与するとともに、関連の標準化動向の調査等を行った。
- ④ NICT の職員の国際標準化活動に関して、平成 26 年度においては、将来網や無線通信に関する ITU 勧告化への貢献に対して日本 ITU 協会賞(国際活動奨励賞)が、また標準化団体 oneM2M 設立等への貢献に対して、一般社団法人情報通信技術委員会会長賞がそれぞれ授与された。

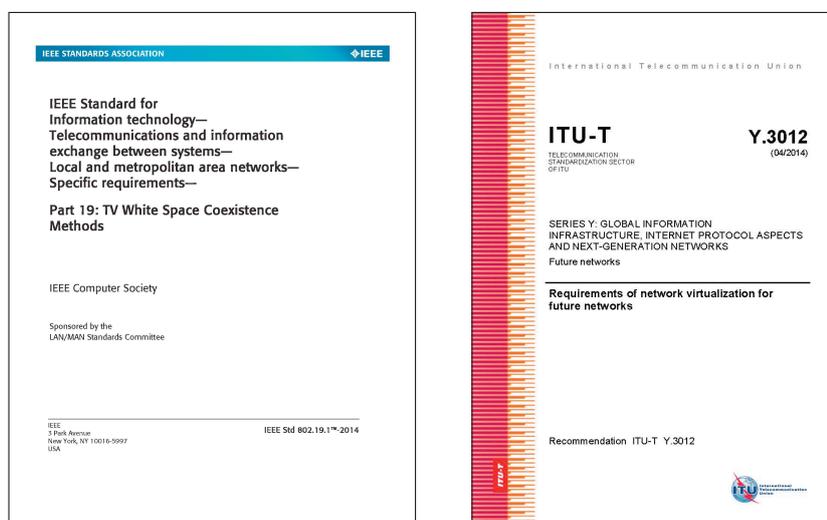


図 1 平成 26 年度に成立した国際標準の例
IEEE802.19.1 TV ホワイトスペース共存方法(左)
ITU-T Y.3012 将来網の網仮想化の要求条件(右)

(2) 標準を活用した技術等の成果発信

- ① 平成 26 年 6 月、東京において、APT 5th Workshop on Disaster Management/Communications (WDMC-5) が開催され、NICT から展示及び講演を行い、研究成果のアジア太平洋地域への発信を行った。
- ② 平成 26 年 8 月、タイ・バンコクにおいて、APT と ITU の共催により、第 2 回 Conformance & Interoperability Event が開催され、NICT からは多言語音声翻訳システム及びボディアエリアネットワークについて展示及び講演を行い、研究成果の周知を行った。

(3) 標準化活動に関する人材育成

- ① 標準化活動に関する人材育成の一環として、NICT 内の研究者に対して国際標準化に関する最新事情の周知・啓発を目的とする標準化勉強会を実施し、標準化に実際に携わっている外部専門家による講演等を行った。
- ② NICT 職員に、国際会議に参加するための専門セミナー（日本 ITU 協会等が主催）への参加を呼びかけ、2 名が参加した。

(4) 標準化に関するフォーラム活動への支援、標準化関連国際会議等の我が国における開催支援等

- ① 平成 26 年 7 月に札幌で開催された ITU-T SG16 会合を総務省や関係企業・組織と共催し、ワークショップにおける講演や展示を通じて、NICT の研究成果をアピールした（図 2）。
- ② 平成 26 年 9 月には、量子暗号、量子中継をはじめとする量子 ICT 研究開発に関する推進方策、普及活動、国際協力等に関する議論を行う第 3 回量子 ICT フォーラムの東京での開催を支援した。
- ③ 平成 27 年 3 月には、APT AWG-18 会合の京都での開催を支援するとともに、あわせて NICT の研究成果に関する展示を実施し、研究成果の周知を行った（図 3）。
- ④ 「新世代ネットワーク推進フォーラム」の IP ネットワークワーキンググループ事務局を務め、スマートグリッドを実現するためのホームネットワークに関する標準化活動等を支援した。また、新世代ネットワークの標準化を推進する標準化推進部会の開催支援を行った。



図2 ITU-T SG16 会合の展示

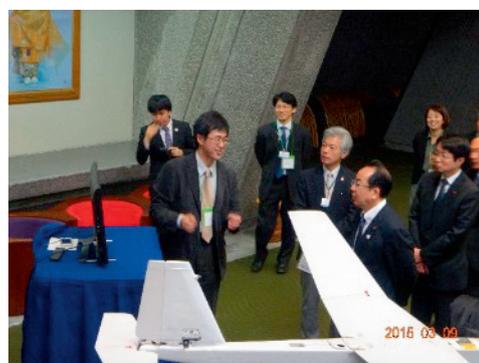


図3 APT AWG-18 会合の展示

(5) 標準化機関との連携強化

- ① 平成 26 年 11 月、ITU の François Rancy 無線通信局長がワイヤレスネットワーク研究所に訪し、無線通信分野の研究者との間で意見交換を行った。
- ② 一般社団法人電波産業会 (ARIB) との間で平成 24 年度に締結した連携・協力の推進に関する協定に基づき、平成 26 年 8 月、第 2 回の連絡会を ARIB において開催し、無線通信関係の標準化活動に関する意見交換を行った。